

「丹後とり貝」の種苗生産

京都府を代表する水産物のひとつで、京のブランド産品にも認証されている「丹後とり貝」は、卵から出荷サイズになるまで一貫して人の手で育てられる完全養殖です。当センターは、採卵からおよそ 0.6mm サイズになるまでの初期段階のトリガイ種苗^{※1}の大量生産技術を全国で唯一保有しており、「丹後とり貝」を世に出す上で非常に重要な役割を担っています。

今年も 5 月 6 日から、翌春に出荷する「丹後とり貝」の種苗生産を開始しました。親貝からの採卵、孵化～浮遊期^{※2}および着底期^{※3}の飼育を行い、300 万個以上の種苗を生産しました。現在、種苗は京都府栽培漁業センターによって飼育が継続されており、1cm サイズまで育てられた後、7 月上旬頃にトリガイ育成業者に配付される予定です。

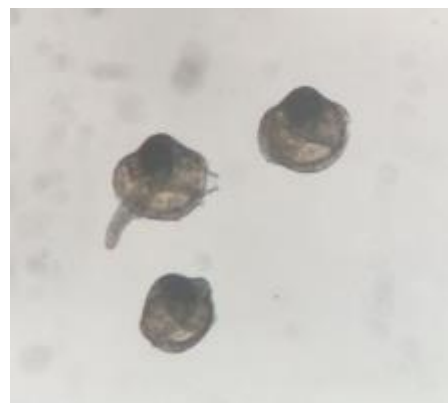
※1 種 苗：養殖用魚介類の呼称

※2 浮遊期：孵化後 9 日間ほどは、水中を泳ぎ回る浮遊生活を送る。

※3 着底期：浮遊生活を終え、海底の砂や泥などに付着し、底生生活に移行する。



採卵の様子



トリガイ種苗(浮遊期、約 0.3 mm)